

シカってどんな生き物？



みなさんはシカを見たことはありますか？野生のシカを見たことがある人もいれば、動物園や奈良公園でシカを見た、という人もいます。今回は兵庫県の自然に生息するシカである「ニホンジカ」について、くわしく解説します。



▲野生のニホンジカ（冬毛）

ニホンジカはこんな動物

食べもの

色々な種類の樹皮や植物を食べ、なくなれば食べ物があるところに移動していきます。

体の模様

薄茶色の毛に白い斑点の模様は夏毛で、「鹿の子」模様と呼ばれます。

お尻の毛

白色で、危険を感じると逆立ちさせて、仲間に危険を知らせることができます。

足の速さ

ふだんはゆっくり。危険を感じた時の逃げるスピードは時速約50～60kmといわれていますが、長くは走れません。

ツノ

ツノが生えるのはオスのみで、年1回新しく生え変わります。ツノの枝別れの数で年齢がわかります。枝別れの数は4が最大です。



1～2歳 2～3歳 4歳～

寿命

オスは15歳、メスは20歳まで生きた記録がありますが、自然界での寿命は5～10年程度です。

群れをつくる

9月～11月頃の繁殖期になると、オス1頭と、メスが複数頭で群れをつくって行動します。

シカと人との関わり

野生のシカの肉は食料として、また皮や骨は生活用品として古くから人の生活に関わってきました。また地域によっては、シカは「神の使い」として扱われ、特に奈良公園のシカは国の「天然記念物」に指定され、保護されています。



▲保護される奈良公園のシカたち



なに もんだい 何 が 問題？ 増えすぎたシカ



近年、野生のシカが増えすぎて困っているという話を聞いたことはありませんか？シカがたくさんいるということは、自然が回復しているよいこととおもいますが、自然の現場ではシカが増えたことによる問題が多数生じています。



▲シカの樹皮はぎ



シカが増えて起こる自然への影響とは？



▲昭和 54 年 7 月

写真：増沢武弘氏



▲平成 17 年 7 月



▲平成 22 年 7 月

※環境省資料「シカが日本の自然を食べつくす」より抜粋

上の 3枚の写真は南アルプスの高山地帯を時代を変えて、同じ角度で撮影したものです。綺麗な高山植物でいっぱいだった斜面ですが、シカによって植物が根こそぎ食べられてしまいました。植物がなくなると、森の生物多様性がなくなってしまう原因になるだけでなく、地面がむき出しになった斜面は、雪崩や土砂崩れなどの自然災害が起こる危険も高くなってしまいます。

環境省では、こうしたシカによる食害を防ぐため、貴重な植物をシカから守る柵やネットを設置したり、数が多くなりすぎたシカを捕獲するための「狩猟」にとり組むハンターの増員を目的とした、広報活動にも取り組んでいます。



シカを防ぐ柵によって植物が守られています

アクティブ・レンジャーを出前授業に呼んでみませんか？

この記事を書いた兵庫県南部・瀬戸内海側にある神戸自然保護官事務所の中村（なかむら）です。自然の中で遊べる出前授業も行っています。

↓↓興味のある方は、お気軽に下記までご相談ください↓↓

環境省 神戸自然保護官事務所 TEL：078-331-1146 FAX：078-331-1148
竹野自然保護官事務所 TEL：0796-47-0236 FAX：0796-47-0249

